

令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立海南高等学校大成校舎 学校長名： 笹井 晋吾 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心、進路希望に応じた特色ある教育課程の編成や授業を展開するとともに地域共育コミュニティ等を通じて地域に根ざした学校づくりを目指す。 知・徳・体の調和がとれ、社会や地域の期待に応えられる自主的・主体的で創造性豊かな生徒を育てる。
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上明確に記入する)	1 規律ある生活態度の育成
	2 基礎力の向上とキャリア教育の推進
	3 相互の人権尊重と特別支援教育の推進
	4 特別活動の活性化と地域に信頼される学校づくり

中期的な 目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の到達状況を見極め、それぞれに目標を持たせ、個々の生徒に応じた主体的・対話的な学習活動により幅広い学力を習得させる。 地域の人材、自然資源を生かした特色ある授業、特別活動を展開し、地域や社会に貢献できる人材を育てる。 入学後早期から卒業後の進路実現を目指し、系統だったキャリア教育に取り組み、人間力を身につけた人材を育成する。
学校評価の 方策の公表 の方法	保護者の学校評価アンケートや外部評価について、ホームページ等で公表する。

達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価						
重点目標				年度評価(3月29日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達 次年度への課題と改善方策
1	生徒の授業への取り組み態度はおおむね良好であるが、消極的な姿勢の生徒も見られる。生徒理解に努め、さらに細やかな指導と授業の工夫が必要である。	教員が積極的に授業研究を進め、生徒が主体的に学べる教材、授業方法を工夫し、基礎学力の向上を目指した取り組みを計画的に行えたか。	授業規律の確立 教材の工夫や研究 個別指導や補習の実施 授業アンケートに基づいた授業改善を行う。	生徒は授業に集中しているか。 教材の工夫や研究に取り組んだか。 個別指導や補習を行ったか。 アンケート結果を元にした授業改善が速やかに行えているか。	様々な学習課題を抱える生徒一人ひとりに対し、丁寧な指導を学校全体で心がけた。しかしながら、授業に前向きに取り組めない生徒の対応に苦慮する場面もあった。	B 次年度も引き続き個に応じた指導を心がけたい。また、1年生で習熟度で授業を行う英語、国語、数学については、学び直しも含めて、各生徒の到達目標の達成に向けた効果的な指導を目指したい。
2	生徒の進路希望は進学、就職がほぼ同数である。進路実現のため、入学から卒業まで一貫したキャリア教育が必要である。	生徒の能力や適性を理解し、進路意識を高める指導が行えたか。家庭と連携を取りながら丁寧な指導をしたか。	面談等を通し、早期に進路目標を持たせる。 外部講師を活用した講演会等の実施や就職指導員と連携した職場開拓を通し、就職内定率100%を目指す。	就職や進学に向け、有効な補習を実施できたか。 担任と進路指導部が連携した取り組みが進められたか。 ガイダンス等で生徒への意識付けができていくか。 希望する職種、職場の開拓ができたか。	就職希望生徒は、コロナ禍の影響で、求人数減のために、1名が就職先を確定できなかった。進学希望生徒については、全員が2月中に進先先を確定できた。	B 次年度は、できれば年度当初に卒業生の就職先を訪問し、状況の確認と生徒のアフターフォローを行いたい。また1学年からの系統だった進路指導の確立を更に進めていきたい。
3	基本的生活習慣の確立を目指す指導を徹底する。様々な問題を抱える生徒に適切な対応を行う体制を確立する。	生活指導上の重点目標を全教職員で共通理解した取り組みができていくか。いじめ未然防止のための取り組みに積極的に取り組めたか。	生徒の抱える諸問題について、教職員が共有する機会を定期的に持ち、組織的な指導を行う。 保護者との連携を密にし、SC・SSWや必要に応じて外部機関とも連携し、迅速な対応を行う。	全職員で意思疎通を図りながら適切な指導が行えたか。 生徒の悩みや問題を把握し、保護者と連携し、適切な指導を行えたか。	教育相談担当の教員を中心に生徒の抱える悩みや諸問題に迅速に、そして丁寧に対応する事ができた。問題を抱える生徒の保護者との連携も、クラス担任を中心に適切に行えた。	B 次年度は教育相談の体制をより充実させたい。またSSWやSCとの連携をより密なものにして、個々の生徒の問題の早期発見、早期対応をより進めていきたい。
4	生徒会、HR活動など生徒に自主活動を促し、積極的に行動できる生徒の育成に取り組む。部活動に参加する生徒は増えつつあるが、さらに活発にしたい。地域との連携・交流を通し、自主性の育成を図る。	自主的で活発なHR活動や生徒会活動が展開されたか。クラブ活動に参加する生徒は増えているか。学校行事・ボランティア活動等において、地域と連携した活動ができたか。	部活動への参加を日常的に呼び掛ける。 生徒が主体的にHR活動・生徒会・専門委員会活動ができるように、指導する。 地域のこども園、小学校や中学校との交流やボランティア活動の場を提案する。日常的に地域に貢献できる環境を作る。	部活動への加入率アップにつながったか。 生徒会が自主的に活動する機会が増えているか。 地域と連携した活動ができたか。またその取り組みは、生徒の自主性の育成につながったか。	設立3年目となる学校運営協議会は順調に進み、これまでの地域と繋がった教育活動にも幅が広がってきた。 コロナ禍の影響により、同一町内の他校生との連携や地域でのボランティア活動は、ほぼ実施できなかった。しかしながら文化祭などでの、生徒の自主的な活動は工夫を凝らしてしっかり行えた。	B 次年度は、今年度はほとんど行えなかった地域との連携活動を、より多くの生徒が関わりを持てるよう、できるだけ生徒主導で行わせていきたい。

学校関係者評価	
令和3年2月15日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>地域に開かれた学校が求められる中、地域の行事等で、多くの生徒が関わっている姿は地域からも好評である。今年度はコロナ禍のために従来の教育活動が困難であったが、前例にとらわれず小規模校の良さを生かして柔軟な対応が必要であろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元企業への就職が今後さらにすすむように、より連携を深めてもらいたいとの意見をいただいた。 学校での教育活動については、地域とのつながりを深く持ち、生徒を成長させる取組を行っているとの評価をいただいた。 生徒減が続いていく中において、学校活性化の一つの手立てとして、eスポーツ等の時代に応じた、部活動の導入も考えてはどうなのかとの意見をいただいた。 クラス減については、教員の定数減に対応するため学校運営で困難な点が出ないようにシステム構築を考慮する必要があるとの指摘をいただいた。 	